

日立の気象 97--- 3月「弥生(やよい)」---

3月の気象暦と過去の観測記録(日立)

- 6日 二十四節気「啓蟄(けいちつ)」
- 7日 助川山林野火災発生(1991年)
- 21日 二十四節気「春分」
- 22日 さくら開花最早日(2002年)
- 23日 大雪 積雪 11cm、
瞬間風速 30.2m/s(1986年)
- 25日 瞬間風速第1位 38.5m/s(1963年)

3月の気温、降水量の予報(関東甲信地方)

<< 気温 >>

30%	40%	30%
低い	平年並み	高い

<< 降水量 >>

40%	30%	30%
少ない	平年並み	多い

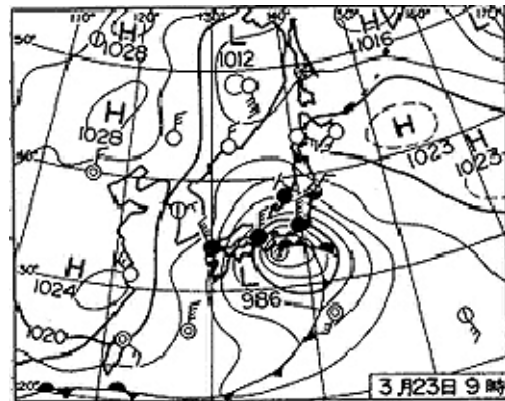
この冬は、「エルニーニョ現象」の影響で「暖冬」傾向が続き、日立の12月～2月の平均気温は平年より2度も高くなりましたが、春先には「エルニーニョ現象」も終息するという予測が出ており、3月の気温は平年並みに推移すると予想されています。

【春のあらし】

3月は、季節の変わり目でもあるため気温の変動も大きく、過去には彼岸の大雪に見舞われたり、さくらが開花したりと季節変化が大きいのが特徴といえます。また、しばしば強い風が吹き「フェーン現象」による大火事が起こることもあり、注意が必要です。

下図は1986(昭和61年)3月23日09時の地上天気図です。春の彼岸のこの日、日立地方は記録的な大雪と強風に見舞われました。台湾の東に発生した低気圧が本州の南岸沿いを北東に進み、午後3時には伊豆諸島三宅島付近で中心気圧

974hpaと台風並みにまで発達しました。北海道の東海上の高気圧からは冷たい空気が流れ込み、日立では昼過ぎから夜半ころにかけ湿った雪が降り、21時には積雪11cmを記録し、最大瞬間風速は30.2m/sに達しました。



春先の雪は水分を多量に含んでいるため重く、標高100mから300m付近のスギやヒノキ類が倒木するなどの被害が発生しました。これは冬の名残の「寒気」と勢力を強める「暖気」がぶつかり合った「春のあらし」の典型的な例といえます。

日立市の天気予報は、ホームページで毎日発表しています。(<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso/>) また、ケーブルテレビの行政放送(5チャンネル)で、天気予報や悪天候が予想されるときには臨時の気象情報を発表しています。

【日立の気候表】

月	2月	3月	4月
平均気温()	4.4	6.8	12.0
降水量(mm)	61.9	103.5	137.5
日照時間(時間)	173.0	181.3	175.0

* 1971年～2000年の平年値

問い合わせ 天気相談所 TEL 22-5520
IP 電話番号 050-5528-5066